



ほけんだより

2019年8月1日発行
社会福祉法人悠晴
大島なかよし保育園

暑い日が続くと、体力が落ちて食欲がわかないことや冷たい物ばかり食べてしまうことがあります。しっかりご飯を食べ、水分の補給には十分気を配りましょう。

<p>8月の保健行事</p> <p>8月下旬 身体測定</p>	<p>7月の感染症</p> <table border="1"> <tr><td>溶連菌感染症</td><td>1名</td></tr> <tr><td>突発性発疹</td><td>1名</td></tr> <tr><td>手足口病</td><td>10名</td></tr> <tr><td>ヘルパンギーナ</td><td>1名</td></tr> </table>	溶連菌感染症	1名	突発性発疹	1名	手足口病	10名	ヘルパンギーナ	1名
溶連菌感染症	1名								
突発性発疹	1名								
手足口病	10名								
ヘルパンギーナ	1名								

熱中症

熱中症は、高温多湿の環境下で体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温の調整機能がうまくはたらかず、からだに熱がこもり、大量の発汗・吐き気・倦怠感などの症状が現れます。

熱中症を起こしやすい条件

- 高温多湿(外だけではなく室内も注意が必要)
- 梅雨明けどきの急激な気温上昇
- 風が弱く、日差し・照り返しが強い日
- 体調が悪い時
- あまり動かない、体力がない、暑さに慣れていない

熱中症予防のポイント

- 日中は帽子をかぶって外出しましょう。
- 炎天下での遊びは長時間に及ばないように注意しましょう。30分毎に日陰で休息をとるようにしましょう。
- 肩まで隠れる、吸湿性、吸水性に優れた衣服を選びましょう。

夏かぜ



大人の夏かぜは症状が穏やかな場合が多いのですが、子どもの場合は症状が重くなることがあります。プールを介して感染する「プール熱」や、口内炎のできる「ヘルパンギーナ」、手・足・口に水疱のできる「手足口病」はウイルス性の夏かぜの代表格で、症状の変化に注意が必要です。発熱・嘔吐が見られる時は、医療機関を受診しましょう。

お願い

保育園は集団で生活する場です。感染症の拡大を予防するために、学校保健安全法施行規則の登園基準に準じて対応いたします。また、子どもたちが、安全に快適に過ごせるよう「入園のしおり」に登園いただけない症状を記載しています。「入園のしおり」の、13～20ページを再度ご確認ください。いただき、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。